

「森林の多面的機能」
解説シリーズ

連載開始に当たって

研究管理官 桜井 尚武

はじめに

地球環境が危機に陥っているといえます。ふるさとの野や山が荒れているといえます。日本が貧しかったのは、年配の人々には実感のあるついこの間までのことでした。1970年代以降の経済発展は、ジャパン・アズ・ナンバーワンといわれた程、貧しさとは無縁な世を作り上げたと思いました。そのあと失われた10年といわれている解決の目処の立たない長い不況が訪れ、今もその不況が続いています。でも、食べ物に困ることはなく、暑い夏にはエアコンを、寒い冬には暖房をつけて快適な生活を謳歌しています。ゴミ捨て場へ出す家庭ゴミは多く、産業廃棄物も捨て場がなくなるほど、大量廃棄は続いています。そんな生活をしているながら、環境の悪化が近づいている気配を感じて、不安を感じています。豊かさで生存環境の保全は相反するものと人々は感じ始めました。

森林の価値の変遷

森林の恵みの価値は誰もが意識せずとも感じています。生まれた時からあるものだから、改めて価値を認識して大事にしようとするまでもないもの、森林はそんな存在です。生活様式が変わって、森林を身近に実感するということから縁遠くなってしまったというのが多くの人にとっての現実でしょう。経済発展とともに森林の質が変化してしまったというものの、しかし、森林はしたたかなものです。森林はそこにある限り、国土保全に励み、豊かな水を下流に流し、野生動物の住処となり、散策する人に安らぎを与えます。

自分の生存環境を確保するために森林を持続的に管理する必要があるという気持ちが強まっています。そのためには、森林の本当の姿、森林が発揮する力とその限界を知らなければならぬと思います。

森林の価値の認識

森林の価値を国民に知ってもらうために、林野庁はその価値を75兆円と試算しました。その妥当性を学術的立場から評価してもらうために、農林水産省が農業の多面的機能とあわせて、森林の多面的機能の評価を日本学術会議に諮問して、その答申が平成13(2001)年11月に報告されました。答申では、森林にはたくさんの機能や価値がある、それらには貨幣価値換算できるもの、貨幣価値換算するのは難しいものやできないものがある、新しい考え方で森林を理解する必要があるなどの指摘をしています。

新企画の目的と期待

森林総研では、この答申に盛り込まれたさまざまな価値すなわち、(1)生物多様性保全機能、(2)地球環境保全機能、(3)土砂災害防止機能/土壌保全機能、(4)水源涵養機能、(5)快適環境形成機能、(6)保健/リクリエーション機能、(7)文化機能、(8)物質生産機能を、専門の研究者がさまざまな角度から分かりやすく解説した記事を連載することを企画しました。

この連載を読んでいただいて、森林の価値を知り、森林を護り、森林を活用し、多様な森の恵みをこれからやってくる子孫に渡せるよう役立ててもらえれば幸いです。よりよい解説とするための応援とご批判をお願いいたします。

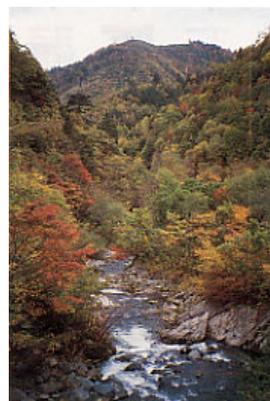


写真 水上・照葉峡(群馬県)